

WEEK5 もっと使えるシラバスを書こう

ワークシート目次

1. SESSION 1 もっとある！シラバスの役割
2. SESSION 2 目的と目標の設定
3. SESSION 3 授業スケジュールのデザイン
4. SESSION 4 授業の構造を可視化する
5. SESSION 5 評価方法の書き方
6. SESSION D 目標を設定してみよう
7. 各セッションの多肢選択課題一覧
8. 参考文献

WEEK5の目的と目標

目的 学生の学習を促すためにもっと使えるシラバスの書き方を習得する

到達目標

1. シラバスの定義と多様な役割を説明できる
2. 適切に目的と目標を設定できる
3. 効果的にスケジュールをデザインできる
4. グラフィック・シラバスの意義と活用方法を説明できる
5. 適切に評価方法を書ける





1. SESSION 1 もっとある！シラバスの役割

この授業では、シラバスについてとりあげます。お手持ちのシラバス、あるいは、ご自身が将来教えることになりそうな科目のシラバスをウェブサイトなどで検索し、お手元にご用意下さい。

例えば、下記のようなサイトで学部1, 2年生対象の科目を検索してみるとよいでしょう。

- ❑ 早稲田大学 <https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>
- ❑ 大阪大学 https://koan.osaka-u.ac.jp/syllabus_ex/campus
- ❑ 中央大学 <http://syllabus.chuo-u.ac.jp/syllabus/>
- ❑ 千葉大学 <http://www.chiba-u.ac.jp/student/syllabus/index.html>
- ❑ シラバス・データベース <http://www.syllabus-db.com/index.html>

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所ではテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W5.S1.Question1

皆さんは今までどのようにシラバスを使ってきましたか？



2. SESSION 2 目的と目標の設定

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所をテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W5.S2.Question1

お手元にあるシラバスに設定されている目標を確認してみましょう。それぞれ認知的領域、精神運動的領域、情動的領域のどれにあたるでしょうか。



3. SESSION 3 授業スケジュールのデザイン

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所をテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W5.S3.Question1

学習内容をふまえて、お手元のシラバスのスケジュールを確認してみましょう。必要に応じて書き直してみましょう。



4. SESSION 4 授業の構造の可視化

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所をテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W5.S4.Question1

学習内容をふまえて、下記のスペースにお手元のシラバスの構造を可視化してみましょう。

5. SESSION 5 評価の書き方

下記はこのセッションで使う Question と Handout です。動画において適宜使用箇所です。ロープがながれますので、一緒に考えてみましょう。

W5.S5.Question1

学習内容をふまえて、お手元のシラバスの評価方法を確認してみましょう。必要に応じて書き直してみましょう。

W5.S5.Handout1

4. 評価情報の例



到達目標

- ①職場における自己啓発の重要性とその手順を説明できる。
- ②職場におけるOJTのコツを説明できる。
- ③職場における新人研修プログラムを作ることができる。
- ④職場で使えるマニュアルを作ることができる。

評価情報

第1部+第2部テスト：15%（○月△日実施）
 第3部テスト：10%（△月×日実施）
 新人研修プログラム一式：20%（×月□日提出）
 マニュアル：20%（□月△日提出）
 受講態度：5%、出席点：30%

W5.S5.Handout2

項目		被評価者氏名			
目標達成行動	真剣	1. 課題（やるべきこと）に真剣に取り組んでいた			
	的確	2. 課題（やるべきこと）をしっかりと理解していた			
	主張	3. 自分の意見を積極的に主張していた			
	役割	4. 与えられた役割をしっかりと果たそうとしていた			
	本題	5. 話題がそれたとき本題に戻そうとしていた			
	納得	6. 妥協ではない納得した結論を出そうと努力していた			
集団維持行動	傾聴	7. 相手の意見をしっかりと聴き、理解しようとしていた			
	仲間	8. グループにとけこもうとしていた			
	笑顔	9. つまらなそうな表情ではなく、笑顔で皆と接していた			
	援助	10. 消極的なメンバーに声をかけていた			
	同意	11. 優れた意見に共感・同意・賛成を表明していた			
	鼓舞	12. 話し合いが楽しくなるように場を盛り上げていた			

6. SESSION D 目標を設定してみよう

今週はシラバスについて学び、目標の書き方についても学習しました。このワークでは「ダメな目標」を改善する作業を通じて、目標の書き方をより実践的に学びましょう。

W5.D

ここに2つの「ダメな目標」の例があります。

(A)「基礎情報科学」

目標 図書館における情報検索方法について学ぶと同時に、情報リテラシーの基本を理解する。ジグソー法の特徴を説明できる

(B)「哲学概論」

目標 哲学の世界にどっぷり浸る経験を通して、考えることに楽しさについて講義する。

どのような目標を設定すれば、「もっと使えるシラバス」になるでしょうか。これらのいずれかを選択して、次のことに取り組んでみましょう。

- この目標の問題点を挙げましょう。
- 問題点を踏まえて改善された目標を考えてみましょう。

あなたが選んだ目標： (A) or (B)

(問題点)

(改善案)

7. セッション課題一覧

ここでは、各セッションで出題された課題を再掲しています。復習等にお役立てください。

W5-1 シラバスの役割の説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) シラバス作成により15回のコース全体をデザインすることができる。
- 2) 契約関係を教員と学生の上に置き、緊張感と距離感をもたせる。
- 3) 学生にとっての授業選択ガイドである。
- 4) 学習効果を高めることができる。

W5-2 授業の目的・目標の説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 授業の目的は、「なぜこれを学ばなければならないのか？」と学生に問われたときの答えを示すつもりで書くとよい。
- 2) 授業の目的を書く際には、あえて主語を書かず、社会全体にとっての広い意義を書くるとよい。
- 3) 授業の目標は、いわゆる「ジャンプすれば届く距離」に設定するとよい。
- 4) 授業の目標は、目的が具体化されたものである。

W5-3 授業概要・スケジュールの書き方の説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 授業概要としては、授業で扱う内容を簡潔に記述するとよい。
- 2) スケジュールを書く際には、成績への影響が少ない回を欠席しようなどという計画を学生が立てにくいように、課題などの情報は載せておかない方がよい。
- 3) 学生の関心や学習の進度に合わせた授業をするためには、スケジュールを書き入れる欄などには「未定」と書いておくのがよい。
- 4) スケジュールを決めるうえでは、他の科目とのバランスを調整しつつ、学生の知識水準や動機付けを把握し、効果的な学習促進を意識することが重要である。

W5-4 グラフィック・シラバスについての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 初学者は、体系的な知識の各部については理解できるが、それを系統的・総合的に理解することは難しいため、教員が体系的な知識の全体像を図式化して提示することが望ましい。
- 2) グラフィック・シラバスの持つ効果としては、注意喚起、概念理解促進、および記憶の定着などが挙げられる。
- 3) グラフィック・シラバスは、教員が初回の授業までに完成させておく必要があり、授業期間中に修正・変更することはいかなる場合も許されない。
- 4) グラフィック・シラバスに描くことができるのは脱構造化された知であるから、より構造化された形の知をグラフィックではないシラバスに記し、合わせて配布する必要がある。



W5-5 授業の評価方法の記し方についての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 「学修の成果に係わる評価」に関しては、「その基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う」ことが、大学設置基準第 25 条の 2 により義務づけられている。
- 2) 評価方法を示す際には、成績評価の配分割合やレポートの提出期限は記した方がよいが、採点基準やテストの内容を明示することは、避けなければならない。
- 3) 授業の目的に対応させることを意識して、大まかな学習成果を評価する基準・方法を記述するのがよい。
- 4) 評価方法は、具体的であるほど自学自習を促すと言われている。

8. 参考文献一覧

(セッションにおいてとりあげたトピックに関する文献等)

Grunert, Judith (1997) *The Course Syllabus*, Bolton, MA: Anker Publishing
シラバスについて丁寧にかけられています。

Nikson, B. Linda (2007) *The Graphic Syllabus and the Outcomes Map: Communicating your course*, San Francisco, Jossey-Bass
グラフィックシラバスについて丁寧にかけられています。

(シラバスに関する文献等)

佐藤浩章編 (2010) 『大学教員のための授業方法とデザイン』 玉川大学出版部